



2010年1月7日

報道関係者各位

慶應義塾大学

外国人看護師候補者と日本人医療機関職員の 協働を支援する取り組みの開始について

- 日本人職員の異文化受容能力の向上とインドネシア人看護師候補者の支援 -

日本・インドネシア経済連携協定（EPA）に基づき、我が国では平成20年度よりインドネシア人看護師候補者の受け入れが開始されました。多くの外国人が国内の医療機関で働くのは初めての試みであり、その過程では文化差による摩擦や混乱も予想されます。

慶應義塾大学総合政策学部・看護医療学部の教員を中心とする「外国人医療職との協働に向けた異文化受容能力開発プロジェクト（略称 INProject）」（代表：杉本なおみ看護医療学部教授）では、インドネシア人看護師候補者だけでなく、受け入れ側の日本人職員を対象とした協働研修を実施し、その異文化受容能力を高める取り組みを始めます。

あわせて、本学でマレー・インドネシア語を学ぶ学生が主体となり、インドネシア人看護師候補者を継続的に支援する取り組みも始めます。

初回取り組みとして恩賜財団済生会横浜市東部病院と協力して研修を実施いたします。

1. 開催概要

日本人向け研修

全体研修（主として事務系職員向け）

日時：2010年1月7日（木）18:00 - 19:30

参加者：事務系職員50名（予定）

会場：済生会横浜市東部病院3階 多目的ホール（中）

部署別研修（インドネシア人看護師候補者受け入れ部署（ICU）の医療職員向け）

日時：2010年1月8日（金）・12日（火）・15日（金）18:00 - 19:30

参加者：医療職員各回10名（予定）

会場：1月8日（金）済生会横浜市東部病院3階 多目的ホール（小）

1月12日（火）済生会横浜市東部病院4階 カンファレンス2・3

1月15日（金）済生会横浜市東部病院4階 カンファレンス2・3

インドネシア人看護師候補者着任前の研修につき、参加者は日本人職員のみとなります。

講師：杉本なおみ（慶應義塾大学 看護医療学部教授・コミュニケーション学）
鈴木美保（済生会横浜市東部病院 人材開発センター主任）

場所：恩賜財団済生会横浜市東部病院

〒230-0012 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3丁目6番地1号

インドネシア事情に通じた専門家や医療コミュニケーションの専門家を擁する本学が、地域貢献の一環として近隣の医療機関に教員を派遣し、そこで働く日本人職員を対象に異文化協働研修を実施します。地域医療において、核となる病院と地域内の診療所が行う「病診連携」は広く知られていますが、今回の「病学連携」の試みが、大学による地域貢献の新しいモデルとして、医療現場で働く各種職員の異文化協働によって生じる摩擦や混乱、またそれに伴うストレス等を軽減することが期待されます。

インドネシア人看護師候補者と学生の交流会

本学でマレー・インドネシア語を学ぶ学生から希望者を募り、在日インドネシア人看護師候補者と定期的・継続的に交流する機会を設けます。

初回打ち合わせを1月22日(金)に予定しています。

2. 背景と取り組みの意義

日本人向け研修

平成20年に発効した日本・インドネシア経済連携協定(EPA)に基づき、すでに多くのインドネシア人看護師候補者が来日し、研修を始めました。その内容は、「経済上の連携に関する日本国とインドネシア共和国との間の協定に基づく看護及び介護分野におけるインドネシア人看護師等の受入れの実施に関する指針」(平成20年5月19日厚生労働省告示第312号)等により細かく定められています。

しかし、異文化接触は本来双方向に作用するものであり、受け入れ側となる日本人職員の受容能力も、その成否に大きな影響を及ぼします。一医療機関あたりの外国人看護師候補者受け入れ人数が2~5名であるのに対し、この異文化協働によって直接・間接に影響を受ける日本人病院職員の数はその数十倍に及ぶことを考えると、外国人・日本人職員の双方にとって働きやすい環境を整えるためにも、日本人職員の異文化受容能力をより一層向上する必要性が高まっています。

その一方で、外国人看護師候補者受け入れ予定の医療機関では、日本人職員向けの異文化トレーニングを実施するだけの教育資源を持ち合わせていない場合がほとんどです。そこで、インドネシア事情や医療コミュニケーションの専門家を擁する本学が、地域貢献の一環として近隣の医療機関に教員を派遣し、そこで働く日本人職員の異文化協働研修を実施するのが、今回のプロジェクトの主眼です。

インドネシア人看護師候補者との交流会

我が国では今まで外国人の受け入れを単純労働に限って認めてきた経緯があるため、「外国人労働者=単純労働者」という認識が固定化しており、母国においては高い社会的地位にあるインドネシア人看護師が、当初看護助手として働くこと、あるいは単純労働者と見なされることに戸惑いを覚えるのではないかと懸念があります。また、半年間という短い期間の日本語研修だけで、果たして3年以内の国家試験合格は可能なのかという声もよく聞かれます。

その一方で、受け入れに伴う初期費用は、多くの医療機関において当初の予想を大幅に上回る額に達しており、これに加えて日本語学習支援や国家試験受験対策の費用を捻出することは大きな負担となります。

この問題の解決の一助として、本プロジェクトは「サービス・ラーニングとしての外国人看護師候補者支援」を実施します。「サービス・ラーニング(service learning)」とは、学生が自発的な奉仕活動を通じて、教室内で得た知識を地域社会の諸問題の解決に充てることで、より実践的な能力を身につけることを指します。具体的には、本学でマレー・インドネシア語を学ぶ学生から希望者を募り、インドネシア人看護師候補者と定期的・継続的に交流する機会を設けます。

これにより、インドネシア人看護師候補者の異文化適応を支援すると共に、学生自身もインドネシア語およびインドネシア事情に関する生きた知識や能力を得ることが期待されます。外国人看護師候補者受け入れ機関は、マレー・インドネシア語学習者の少ない地方に多く、このような協力はなかなか実現困難なのが実情です。都市部の中核病院と地域の大学による連携の珍しい例としても、先駆的なモデルとなることが予想されます。

3. 今後の展開

今後は、職員研修や学生による日本への適応支援に加え、本学看護医療学部生から有志を募り、看護師国家試験受験支援ボランティアも発足させる予定です。

これらの活動に関し、ドキュメンタリー番組制作などの目的で定期的に取材を続けたいというご希望がある場合には、下記問い合わせ先(杉本)までご連絡ください。今後の活動日程が決定次第、お知らせいたします。

4. プロジェクトメンバー

慶應義塾大学 看護医療学部	教授	杉本なおみ(プロジェクト代表)
慶應義塾大学 総合政策学部	教授	野村亨
東京大学 医学教育国際協力研究センター	講師	大西弘高
静岡県立大学 短期大学部 看護学科	助教	影山葉子
済生会横浜市東部病院 人材開発センター	主任	鈴木美保

ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

本リリースは文部科学省記者会、厚生労働記者会、日比谷クラブ、各社社会部、各社横浜支局、各社湘南支局、看護・医療系媒体等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾大学看護医療学部 教授 杉本なおみ
TEL / FAX : 0466 49 6214
Email : naomi@sfc.keio.ac.jp

済生会横浜市東部病院 総務課
TEL : 045 576 3000 (代表)

慶應義塾広報室 渡辺・河越
TEL : 03 5427 1541 FAX : 03 5441 7640
Email : m_koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>